



くしもと しげき 久志本 成樹 教授

～ 救急医学分野 ～

講義題目

人として、医師として“輝く”

【略 歴】

1985年 3月 大分医科大学医学部医学科卒業	1994年10月 熊本大学医学部臨床検査医学講座
1985年 6月 日本医科大学付属病院研修医	国内留学（～1995年12月）
1987年 6月 日本医科大学付属病院救命救急センター医員	1996年12月 日本医科大学大学院医学系研究科博士号（医学）取得
1987年 7月 日本医科大学付属病院救命救急センター医員助手	1998年10月 日本医科大学付属病院高度救命救急センター講師
1987年 7月 順天堂大学浦安病院外科 （～1988年6月）	2007年 4月 日本医科大学付属病院高度救命救急センター准教授
1987年12月 総合会津中央病院救命救急センター副センター長	2009年 4月 日本医科大学付属病院高度救命救急センター教授
1990年 7月 聖隷浜松病院救急部副部長	2010年11月 東北大学大学院医学系研究科教授
1990年10月 米国ミネソタ州メイヨークリニック留学 (Visiting Clinician)	2010年11月 東北大学病院高度救命救急センター部長 （併任～2025年3月）
1992年 7月 山梨県立中央病院救命救急センター医員	2025年 3月 退職

【研究業績等の紹介】

久志本成樹教授は、救急医学、集中治療医学、外傷学、災害医学や臓器移植・提供体制に関する臨床および社会的課題に関して、病態解明と新たな治療法開発、研究体制および社会体制の整備に寄与した。

外傷患者の急性期における凝固・線溶異常の病態に関する臨床研究を行い、線溶系の役割に関する新たな病態解明と治療への展開を解明した。この研究は、世界の外傷急性期治療へも多大な貢献をしている。さらに、生体内に生理的に存在するダメージ関連分子パターンにも注目し、敗血症や心停止後症候群、外傷の病態形成における意義を明らかにし、新たな病態概念の提示を行った。また、敗血症に関しても多施設共同臨床研究をリードし、播種性血管内凝固の病態解明、急性期治療における包括的アプローチの構築、さまざまなバイオマーカーの臨床的意義の解明を行い、これらに基づく治療法開発に寄与した。

さらに、ビッグデータを積極的に活用したエビデンスの創出も行っており、臨床・疫学研究、リアルワールドデータ解析に基づく救急・集中治療提供体制の整備に関する社会的貢献や、急性期病態における個別化医療に向けた多くの知見を示し、本領域において多大な貢献をした。

また、厚生労働科学補助金事業等により、脳死下臓器提供体制の整備に関する継続的活動、医療情報の電子共有化の促進など、関連領域における国レベルの体制整備に寄与した。

久志本教授によるこれらの研究テーマは、国内外において継続的に展開されており、ビッグデータ解析、医療関連電子情報共有化、AIと深層学習、個別ニーズへの対応、エビデンス創出など、いずれも発展的展開がなされている。

救急・集中治療、外傷、熱傷、外科、acute care surgery、血栓止血などの多数の専門医・指導医の資格を有し、学外や一般市民への教育や社会的啓発に多大な貢献をした。